

診療科トピックス

神 経 科

小児てんかんの治療～最近の流れについて

今回は、てんかんの最近の治療の傾向について、お話をさせていただきます。

てんかん発作とは、多くの大脳の神経細胞(ニューロン)が同期して過剰な電気活動を起こすことによって生じる微候・症状を反復する慢性の疾患です。約7割の子どもたちは薬で発作が抑制されますが、約3割の方は発作が十分抑制できないとされています。治療は、抗てんかん剤による内服治療、外科的治療などがあります。

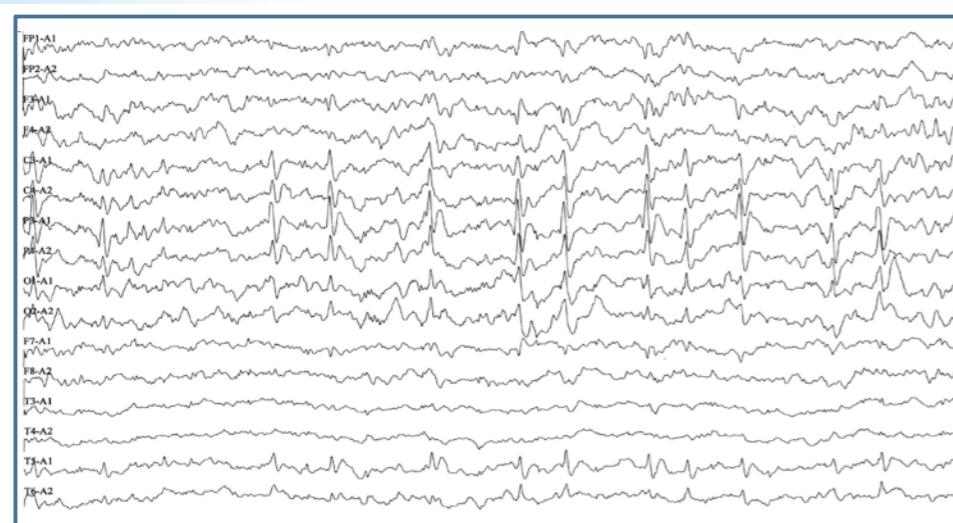
まず、内服治療についてです。ここ数年、多くの新規抗てんかん薬が使用できるようになりました。新旧合わせて20種類近い薬剤があり、さらに現在国内臨床治験中の薬剤も数種類あります。薬剤の選択肢は年々増加していますので、主治医に受診の際に質問されるとよろしいかと思います。

次に、外科的治療です。発作が落ち着かない場合には、外科的治療が選択されることが増えてきています。最近は、2-3種類の適切な抗てんかん剤を内服しても発作

が残存し、子どもに不利益のある場合には、積極的に外科的治療の検討が勧められるようになります。

難治性てんかんの子どもたちが、手術によって発作が改善することにより、発達面の成長を得られる場合もあります。外科的治療には、開頭手術(焦点切除術、脳梁離断術等)の他に、ここ数年は迷走神経刺激法(装置埋め込み術)という、発作を緩和するための手術も行われるようになりました。

残念ながら、現在は愛知県内には小児のてんかん外科施設はありませんので、他県の病院を御紹介して、連携して治療を行っています。全てのてんかんの子どもたちが手術可能というわけではありませんので、まず専門施設で検査を受けていただく必要があります。他の治療として食事療法のケトン食療法も見直されてきています。てんかん治療も次第に変化しています。新しい情報を得ていただくことが大切です。



てんかん性突発波

●新たに1名の医師を迎えました。



鈴木 克尚
麻酔科

新任医師紹介

看護部だより 外来

こんにちは。看護部外来です。

私たちは、子どもたちの心と身体の特徴を理解したうえで、健やかな成長を支援できることを目指しています。

痛みやストレスを伴う処置では、子どもの年齢や理解度に応じて、処置についてのお話を子どもたち自身のがんばる力を引き出す援助を目指しています。不安や嫌な気持ちを少しでも和らげ、痛みを軽減できるように、ご家族の方に付き添っていただき話しかけたりおもちゃを使用して気を紛らせたりしています。ときには、絵本を使ってわかりやすい言葉を選び説明します。採血の後に貼る絵を描いた絆創膏を選んでもらい意欲を引き出します。このような援助により、子どもの表情が和らぎ、自ら手を出し採血に臨めます。終了したら、子どもが頑張ったことをたくさん褒め、「頑張る力・達成感」を伸ばす手助けになればと考えています。

子どもの成長発達にあわせて、わかりやすい言葉で説明すること、どうすれば頑張れるか一緒に考え、頑張ったことを十分に認め、達成感を大切にしたいと考えています。



平成27年8月1日現在